平式部館（式部城）（石川県羽咋郡志賀町町）（浄真寺）

平式部館（ひらかしきぶやかた）は日本海に面した安部屋・町地区の低丘陵上（比高１０ｍ前後）に築かれた丘 城で、単郭の居館と想定されます。館の規模は１０ｍ四方ほど、東・南・西側は段丘崖で 区画され、虎口は南側に開いていたと推測されます。

寿永 2 年（1183 年）　：5 月 11 日（西暦 6 月 2 日）に起こった倶利伽羅峠の戦いに敗れた平維盛の重臣・平式部大夫が、その後間もなく志賀村（現・志賀町町）に落ち延びて隠棲する。平式部大夫を祖とする「平家（ひらかけ、たいらけ）」はその後、中能登の在地土豪に成長し、応永 15 年（1408 年）頃には能登国守護となった畠山満慶に召し出されて能登畠山氏の被官となる。後世、平家は江戸幕府天領地 13 カ村を治める大庄屋になる。天正 4- 5 年（1576-1577 年）　：戦国大名・上杉謙信が能登国に侵攻し、当地域の城・館（富来城、末吉城、木尾嶽城［きおだけじょう］、平式部館［ひらかしきぶやかた］）を含む諸城・諸館を落とす。天正 5 年に決着する七尾城の戦いによって能登畠山氏は滅亡する。

浄真寺参道

石塔

土塁跡

平家(タイラケ)住宅